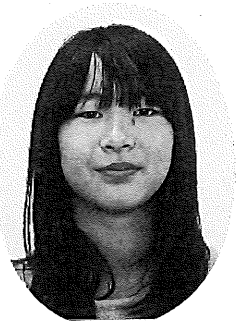


# 私を変えた震災体験

池月小6年 松田奈々美



顔で家族と接することを心掛けるようにして生活しています。何より、家族への感謝の気持ちを言葉にするようにしました。

二つ目は、毎日の生活への感謝です。震災では、電気と水のない生活が続きました。これまで、電気や水なんて当たり前にあるものだと思っていました。実際、電気もつけっぱなしだったし、水も無駄遣いをしていました。心の中では永遠になくならないものだと思っていました。でも、あの日…。電気や水のありがたさ、永遠でないことを身をもって体験しました。あの日から、私は、電気をぐまめに消すように心掛けています。また、水も無駄にしないように心掛けています。電気も水も永遠ではありません。みんなにも呼びかけていきたいと思っています。

一つ目は、家族の大切さです。池月は大きなひ害はありませんでしたが、沿岸部は津波で建物のひ害だけでなく、人の心にも大きな傷跡を残しました。両親が亡くなり、自分だけが生き残ってしまった私ぐらいの子供の話がテレビで見ました。その子は、自分をとても責めていました。でも、私は、(あなたのためじゃない…)と何回も思いました。私がその子の立場だったら…と思うと、分かっていてもその子と同じように自分を責めてしまうと思います。家族が大好きだからです。だから、私は、もっと家族が大好きだということを態度で表そうと思います。これまで以上に手伝いをする、家族との会話を増やす、笑

私は、震災後、人に対する考え方、日々の生活に対する考え方、自然への考え方が大きく変わりました。当たり前なのではなく、使えることに感謝すること、日頃から友達と良く助け合うことが今の私の生活の基本スタイルになっています。